

# 京都精華大学 友愛館

KYOTO SEIKA UNIVERSITY YUAIKAN

No. 23-014-2017作成

新築  
学校

発注者	学校法人京都精華大学	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	三井住友建設株式会社一級建築士事務所 SUMITOMO MITSUI CONSTRUCTION CO.,LTD	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	三井住友建設株式会社大阪支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 周辺環境に溶け込む傾斜地を最大限に生かした建物計画

### 建物概要

「友愛館」は京都精華大学に2013年度に設立された「ポピュラーカルチャー学部」のための施設であり、2014年4月より使用が開始されている。ポピュラーカルチャー学部は、国内では初めての試みとなる「音楽」と「ファッション」の学問領域の融合を目指したものであり、新学部棟ではその専門性に特化した録音スタジオや音楽練習室、ファッションショーを想定した500人規模が収容可能な多目的ホールなど、他領域にわたる要素をコンパクトにまとめた構成となっている。また、キャンパス全体の中では「求心力のある交流の場」をコンセプトとし、様々な学生が親しみを持つる建物を目指して計画されている。



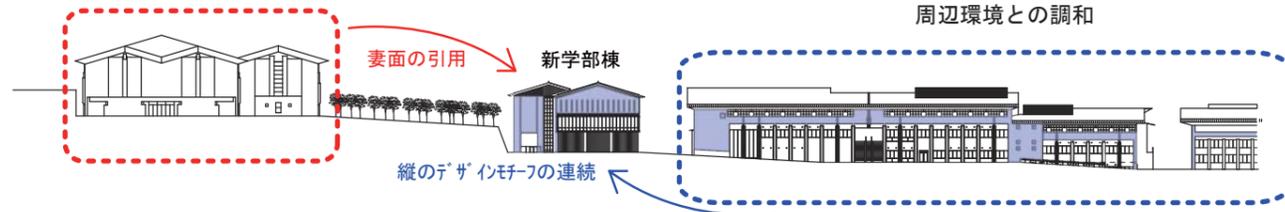
キャンパス全体配置

### 建物構成と景観配慮

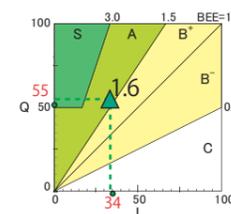
建設地は建物高さが15m以下に制限された風致地区内に位置し、京都北山の溪流に沿って点在する集落を想起させるキャンパス配置を全体コンセプトとし、約三十年の歳月をかけ順次校舎が建設されている。今回の新学部棟では、隣接する建物の外観要素を引用しながら、周辺環境との調和を図っている。また建物外観は最上階の3階から多目的ホール、2階のファッション諸室、1階の音楽教室、地下の音楽スタジオと、各コースが持つ空間構成の特性がレイヤー状に積層する外観構成としながら、合わせて地上部からは各階に対し、螺旋状に直接アプローチが可能な動線を確保し、傾斜地を最大限に生かした構成とすることで、「求心力のある交流の場」としての新学部のコンセプトを具現化している。



周辺環境との調和



建物データ	所在地	京都府京都市	竣工年	2014年	敷地面積	144,780㎡	延床面積	3,795㎡ (該当建物)	構造	RC造	階数	地下2階、地上3階
省エネルギー性能	ERR (CASBEE準拠)	25 %	LCCO <sub>2</sub> 削減	19 %	CASBEE評価	Aランク	BEE=1.6	2011年度版自治体提出				



新学部棟 外観

### 用途に合わせた開口で構成された外観による省エネへの取り組み

各階、用途に合わせた適切な開口とすることで省エネを実現している。建物は、最上階の3階から多目的ホール、2階はファッションコース教室、1階は音楽コース教室、地下は音楽スタジオ等で構成されているが、各コース（階）ごとに必要な採光、通風、遮音としての外壁開口量を明確にし、用途に合わせた無駄の少ない照明、断熱、遮音効果による建物環境配慮への取り組みを行っている。さらに、それらを外観要素として綺麗に積層させることで、深い軒や格子と合わせ、傾斜地に建つ掛け造りを想起させるような、オリジナル性を備えた外観意匠としている。

### 再生可能エネルギー利用設備としての太陽光発電設備を設置

新築計画の一環として、発電効率のよい隣接広場に面した既存建物の庇上に太陽光発電設備を新設。新築建物のエントランスやエレベーターホール廻りの照明分の電力を賅っている。その他、京都産木材（地域木材）の利用、人感センサー、LED器具、浸透性保水インターロッキングの採用等でも環境配慮をおこなっている。

### その他

第2回京都市環境配慮建築物顕彰制度における「京(みやこ)環境配慮建築物」奨励賞受賞

### 設計担当者

建築：小林高行、馬場圭祐／構造：小林知己、浅川拓哉、設備／村田成芳、平川 仁士



積層する外観

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3 .2. まちなみ・景観への配慮 (周景との調和、傾斜地を生かした構成)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (軒の深い外観)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (太陽光発電設備)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用料削減 (間伐材 (地産木材) の利用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (景観配慮)